（仮訳）

プレス・リリース

2026 年 11 月 18 日

バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、グローバルな銀行システムが直面するリスクと脆弱性について議論。

- オペレーショナル・リスク及び脆弱性について意見交換を行い、情報セキュリティ及びサードパーティ依存が引き続き主要な監督上の優先課題であることを確認。
- 金融リスク及び脆弱性に関しては、金利リスク、銀行とノンバンク金融機関との相互連関、データセンター関連のファイナンス及び人工知能（AI）関連エクスポージャーなどについて議論。
- 「健全な流動性リスク管理及びその監督のための諸原則」の的を絞った改定について市中協議を実施することに合意。

バーゼル委は、2026 年 11 月 18 日にバーゼルで会合を開催し、分析・監督・規制上の幅広い取組みについて議論した。

金融安定の見通し

バーゼル委は、オペレーショナル・レジリエンスについて意見交換を行い、情報セキュリティ及びサードパーティ依存が引き続き主要な監督上の優先課題であることを確認した。デジタルチャネル、クラウドサービス及び人工知能（AI）の利用拡大は、効率性やイノベーションの向上につながる一方で、サイバー攻撃、オペレーショナル・インシデント、デジタル詐欺、技術障害及び相互に関連する依存関係へのエクスポージャーを高める可能性もある。監督当局は、インシデント対応、コンティンジェンシー・プランニング及び重要サービスのレジリエンスを監督上一層重視することで対応している。

バーゼル委は、グローバルな銀行システムが直面する現在の金融上のリスク及び脆弱性について意見交換を行った。メンバーは、エネルギー及び商品の価格、貿易動向並びに金利がより長期間にわたり高止まりする可能性などを背景に、マクロ経済及び地政学上のリスクが引き続き高い水準にあることを指摘した。特に、銀行勘定の金利リスク、未実現損失、商業用不動産に係る借換リスク、プライベートクレジットやデータセンター及び人工知能（AI）関連のファイナンスを含めた、銀行とノンバンク金融機関との結び付きの拡大に注目が集まった。銀

行の自己資本及び流動性の状況は引き続き総じて堅固であり、資産の質についても全体として著しい悪化はみられていない。

暗号資産

バーゼル委は、銀行の暗号資産エクスポージャーに係る健全性基準について、的を絞ったレビューを継続している。

健全な流動性リスク管理及びその監督のための諸原則

バーゼル委は、2008 年に公表した「健全な流動性リスク管理及びその監督のための諸原則」の的を絞った改定に係る評価を完了した。バーゼル委は、同諸原則の的を絞った改定案について市中協議を実施することに合意した。市中協議文書は来月公表される予定である。

実施状況

バーゼル委は、カウンターパーティ信用リスク及び流動性カバレッジ比率（LCR）に係る基準の技術的改訂について市中協議を実施することに合意した。市中協議文書は今月後半に公表される予定である。

また、バーゼル委は、バーゼルⅢの完全かつ整合的な実施を確保する上で重要な取組みである規制の整合性評価プログラム（RCAP）について議論した。RCAP には、各メンバー法域の国内規制が国際的に合意された基準とどの程度整合的かについて、バーゼル委が実施するピアレビューによる評価が含まれる。これまでにバーゼル委は、当初のバーゼルⅢ基準、流動性基準及び大口信用供与の枠組みに関する法域に対する評価をすべて完了している。

バーゼル委は現在、バーゼルⅢ基準のうち未評価となっている基準に関する法域別評価を開始している。最初の評価では、香港における改訂後の信用リスク基準及びオペレーショナル・リスク基準の実施状況を対象とし、その結果は今後数か月以内に公表される予定である。

また、バーゼル委は、バーゼル枠組み CRE20.14 の基準に照らし、監督当局が米州投資公社（IDB Invest）向け債権に０%のリスクウェイトを銀行が適用することを認め得ることに合意した。

さらに、バーゼル委は、メンバー法域における第２の柱に係る比例適用の状況に関するストックテイクの結果について議論した。本レビューでは、自己資本

充実度の評価プロセス（ICAAP)、監督上の検証・評価プロセス（SREP）及び第２の柱に基づく追加資本賦課において、各法域がどのように比例適用しているかが検証された。

バーゼル委議長であり、スウェーデン中央銀行総裁であるエリック・テデーン氏は、以下のように述べた。
「今週開催されたバーゼル委会合では、2027-28 年の作業計画及び戦略的優先事項並びに関連する現代化の取組みについて議論する機会が設けられた。これらは、2027 年初頭に中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ（GHOS）に承認を得るため提出される予定である。
また、バーゼル委は、そのガバナンス及び業務遂行の枠組みが、引き続き成果重視であり、かつグローバルな銀行システムの動向に適切に対応できるものとなるよう議論を継続した。」